

動物病院各位



途切れないって、安心。



advocate®

これまでにない「予防力」を持った
新しい内外寄生虫薬「アドボケート®」

定期的な投薬により、モキシデクチンの線虫類に対する有効濃度が保たれ、駆除効果が持続。
アドボケート®の駆虫は〈プロアクティブ〉



バイエル薬品株式会社 動物用薬品事業部
〒100-8265 東京都千代田区丸の内1-6-5
<http://www.bayer-ah.jp>

1512-30000-CP-AC-001-IS



アドボケート®



アドボケート®の特長

長く効く

月一回の定期的な投薬で、線虫類(犬糸状虫感染幼虫・回虫・鉤虫)に対する駆除効果が**投薬後も約1カ月間持続します(プロアクティブ)**。

深く効く

回虫と鉤虫の成虫だけでなく、**第4期幼虫・未成熟虫**にも高い駆除効果を発揮します。

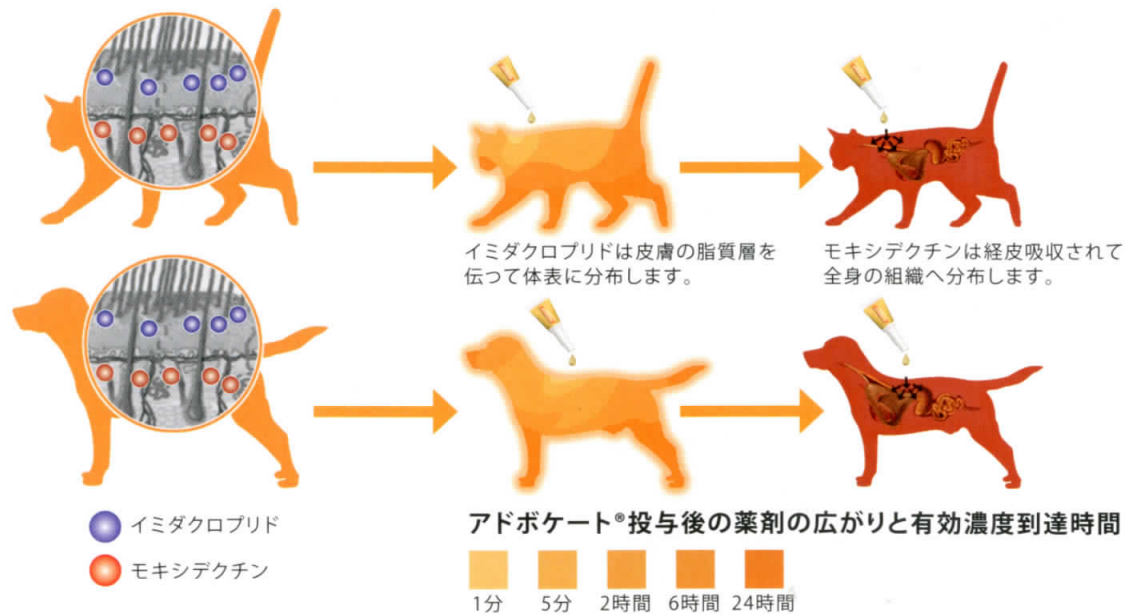
速く効く

寄生したノミが体表上に広がったイミダクロプリドと接触することで、**吸血に依存せずに**駆除効果を発現します。

広く効く

猫のミミヒゼンダニにも高い駆除効果(98%以上)を發揮します(猫用製品)。

アドボケート®は、寄生虫に対する駆除効果や犬猫に対する安全性で定評のあるイミダクロプリドとモキシデクチンを配合したスポットタイプの内外部寄生虫薬です。



製品サイズ・効果効果



0.4mL/1.0mL/2.5mL/4.0mL スマートパック(3ピペット入り)
0.4mL/1.0mL/2.5mL/4.0mL クリニックパック(30ピペット入り)



0.4mL/0.8mL スマートパック(3ピペット入り)
0.4mL/0.8mL クリニックパック(30ピペット入り)

内外部寄生虫にわたる幅広いアドボケート®の効果

イミダクロプリド…ノミの駆除



モキシデクチン…犬糸状虫症予防/回虫・鉤虫駆除/ミミヒゼンダニ駆除*

*猫用製品のみ



使用年齢・体重



7週齢の子犬、体重1.0kg以上の犬から使用可能

投与90分後の水濡れやシャンプーは、犬糸状虫症の予防効果に影響しません。(ノミ駆除効果を鑑み、投与4日目以降のシャンプーをお勧めしています。)

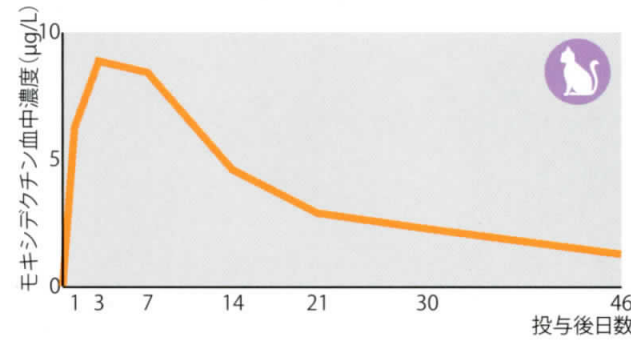
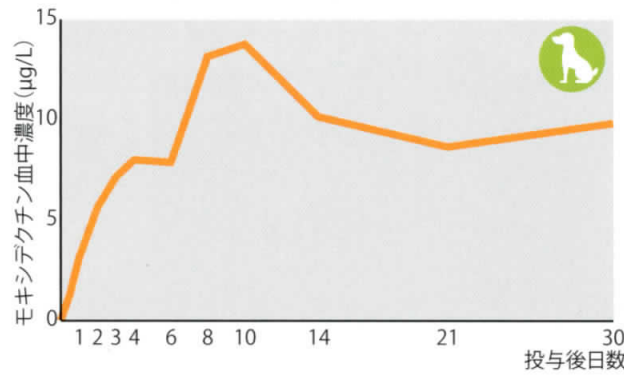


9週齢の子猫、体重1.0kg以上の猫から使用可能

モキシデクチンのユニークな血中動態

単回投与後のモキシデクチン血中濃度推移

アドボケート®に含まれるモキシデクチンは経口薬と異なり「経皮吸収」されることによって体内血中濃度が緩やかに推移します。



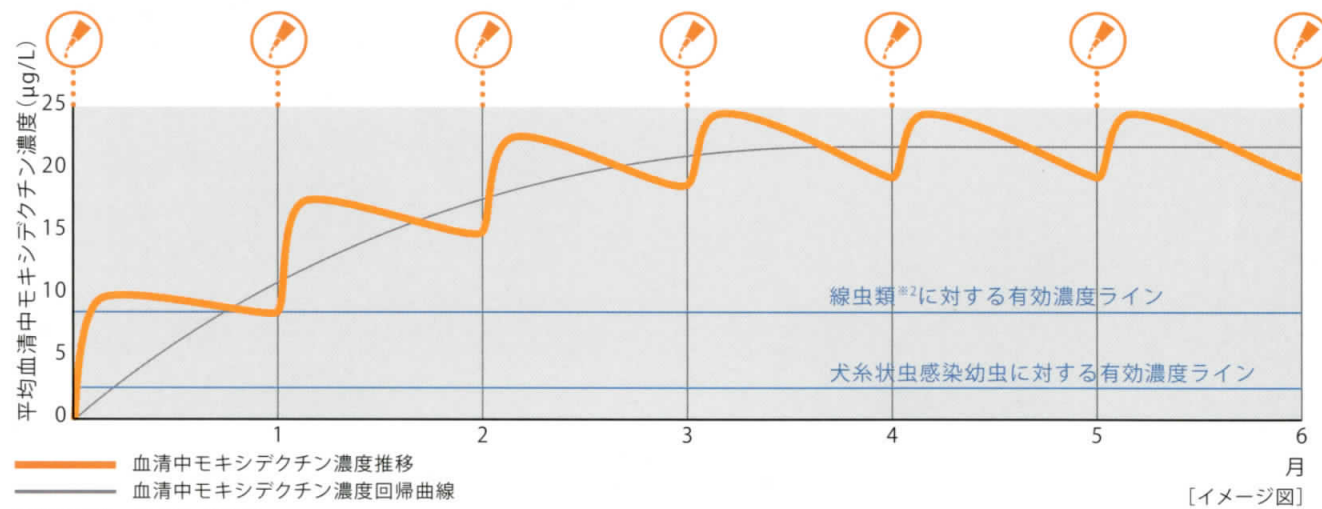
薬物動態学的パラメータ	AUC (µg·d/L)	279.0±45.94
	Cmax (µg/L)	15.13±4.82
	Tmax (day)	9.25±1.04

薬物動態学的パラメータ	AUC (µg·hr/L)	5565±1.58
	Cmax (µg/L)	12.3±1.63
	Tmax (day)	2.85±2.0
	T1/2 (day)	20.8±1.4

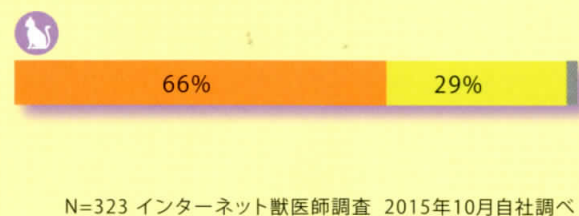
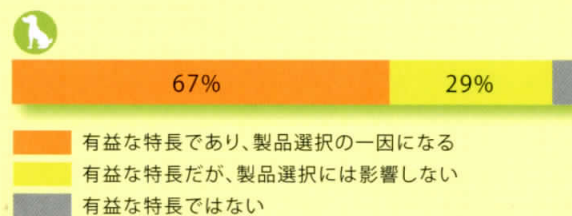
犬におけるアドボケート®投与後のモキシデクチン血中濃度推移

複数回投与後にモキシデクチンの血中濃度が定常状態*(Steady State)に達すると考えられ、線虫類に対する有効濃度ラインよりも高く持続されることにより、プロアクティブな駆除効果が生み出されます。

※1.定常状態(Steady State):投与量と排泄量が等しくなり、血中濃度の蓄積がなくなった状態



『有効成分の血中濃度が長期間維持され、切れ目ない寄生虫駆除効果を実現する』ことは多くの獣医師に有益と受け止められています。



プロアクティブな駆除効果

従来品の投与モデル

従来の線虫類の駆除とは「薬剤を投与することで、現在寄生している虫体を駆除する」ことであり、次回に駆除薬が投与されるまでは動物体内で線虫類の発育が継続していました。



毎月のアドボケート®投与モデル

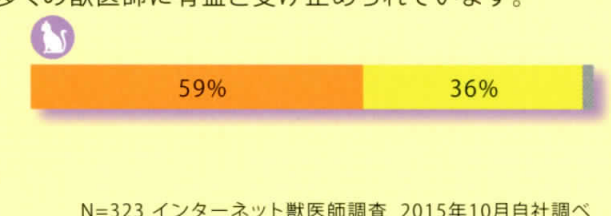
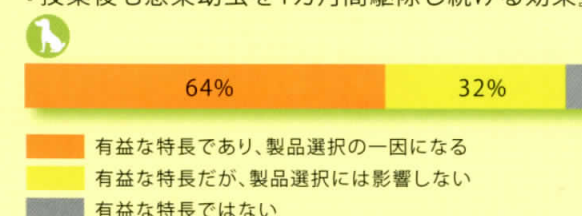
アドボケート®は定期的な投与により血中のモキシデクチン濃度が維持され、投与後4週間にわたり新たに感染する線虫類を駆除し続けます。

注.投与後7~28日目いずれかで犬および猫の犬糸状虫、犬鉤虫・猫鉤虫の人工感染試験を実施。犬鉤虫で99.7%、それ以外は全て100%の駆除効果が確認されています。



アドボケート®の継続投与は、より確実な寄生虫コントロールを可能にします。

『投与後も感染幼虫を1カ月間駆除し続ける効果』は多くの獣医師に有益と受け止められています。





nematodes

深く効く

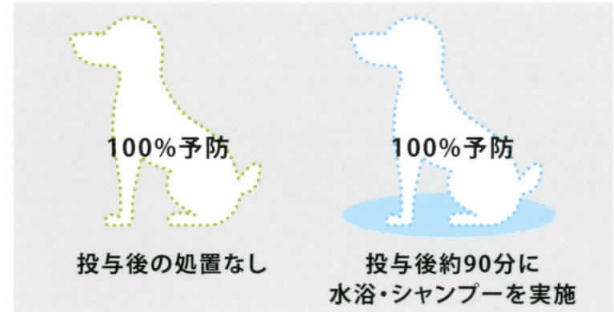
線虫類の駆除・予防効果

犬製品の犬糸状虫症の予防効果



供試動物 各群6頭:ビーグル犬、11~12か月齢、
体重9.2~12.6kg
試験設定 犬糸状虫感染幼虫を、1頭当たり50匹ずつ
人工感染。
感染後33日目に規定の用量を投薬し、146
日目に虫体を確認。1群では投与後約90分
に水浴とシャンプーを実施。

アドボケート®投与群における犬糸状虫症予防率(%)



投与90分後の水濡れやシャンプーは、
犬糸状虫症の予防効果に影響しないことが確認された。

猫製品の犬糸状虫症の予防効果



供試動物 各群10頭の猫、5.5~6.5か月齢、体重1.73~3.97kg
試験設定 犬糸状虫感染幼虫を、1頭当たり100匹ずつ
人工感染。
感染後30日目に規定の用量を投薬し、170
日目に虫体を確認。

犬糸状虫成虫陽性頭数(各群10頭当たり)



回虫、鉤虫の駆除効果



	第4期幼虫 ^{※1}	未成熟虫 ^{※1}	成虫 ^{※2}
犬回虫	91.6~98.6%	100%	96.2~100%
犬鉤虫	98.6%	100%	100%
猫回虫	96.8~100%	90.9%	100%
猫鉤虫	100%	100%	100%

※1:人工感染犬猫(幼虫形成卵または感染幼虫を経口投与)
※2:自然感染犬猫(糞便中への虫卵の排出が確認された犬猫)



flea

速く効く

ノミの駆除効果

『吸血に依存せず』新たに寄生するノミ成虫を素早く駆除



ノミ成虫は、犬猫の体表上でイミダクロプリドに接触することで正常な神経伝達が遮断され麻痺を起こし、わずか3~5分で吸血出来なくなります。内服薬と異なり『吸血に依存せず』駆除効果が発現します。

イミダクロプリド製剤の速効性ノミ駆除効果

供試動物 体重13kg、年齢1.5~2歳の雌雄ビーグル犬 計4頭
試験方法 イミダクロプリド製剤を投与した7日後に供試犬の被毛を刈り取り、シャーレの蓋を無毛部に固定し、ノミ成虫30匹をその中に入れてノミの行動を観察した。

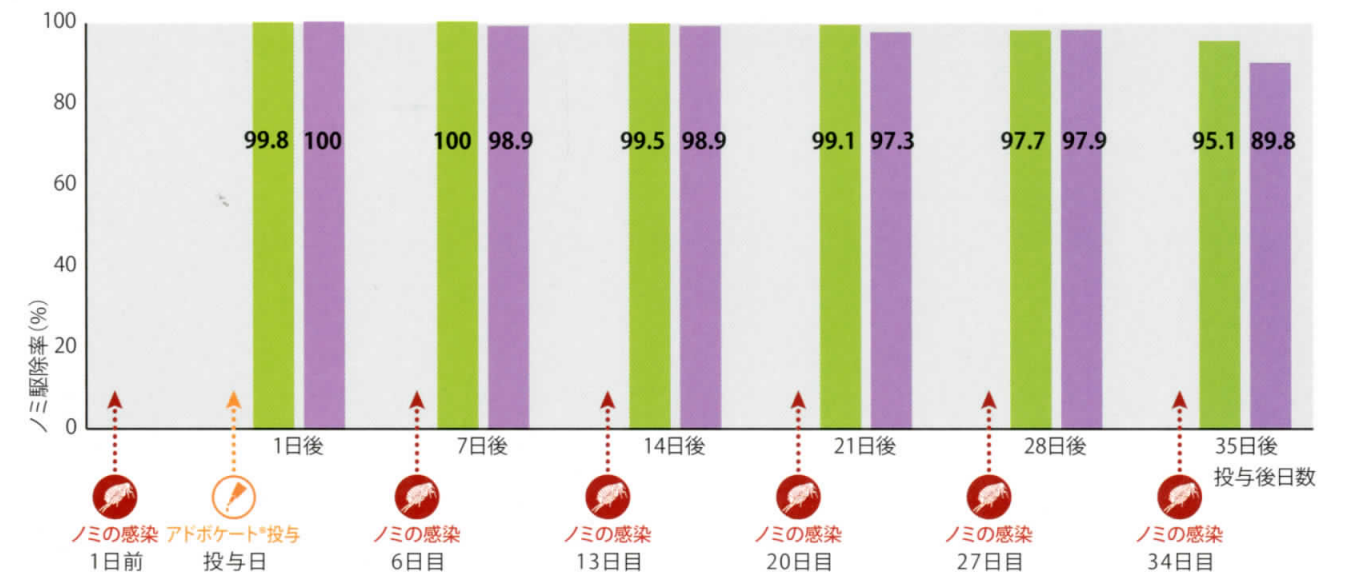
	イミダクロプリド製剤	対照
ノミ寄生1時間後	ノミは吸血開始後3~5分で吸血を停止し、痙攣が起こり始め、やがて死滅。	ノミは吸血を開始し、十分に活動的であった。
ノミ寄生24時間後	すべてのノミは死滅していた。	ノミは通常の行動を示し、十分に活動的であった。

出典:International Flea Control Symposium.Suppl Compend Contin Educ Pract Vet Vol.22, No.4(A),2000

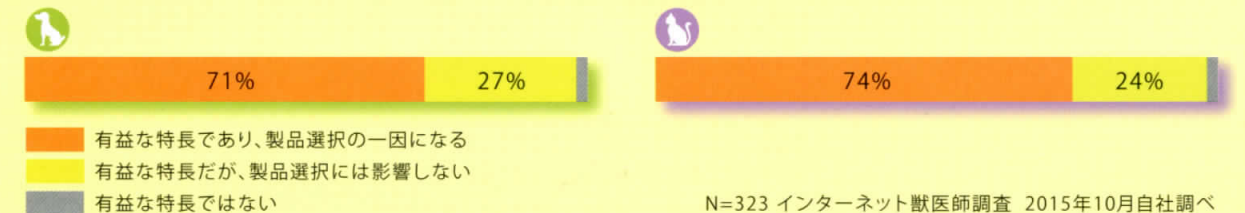
約1か月間、高いノミ駆除効果が持続



犬猫各16頭にネコノミの成虫を1頭当たり100匹ずつ人工寄生させ、投与後のノミ寄生数をコントロール群と比較した。



『吸血に依存しない』ノミ駆除効果は多くの獣医師に有益と受け止められています。



N=323 インターネット獣医師調査 2015年10月自社調べ



ミミヒゼンダニの駆除効果(猫)

猫のミミヒゼンダニに対して高い駆除効果を確認



ミミヒゼンダニが自然寄生した猫に対して、単回投与[試験0日投与]および反復投与[試験0及び28日投与]後に、ミミヒゼンダニ虫体の有無を確認し駆除率を算出した。

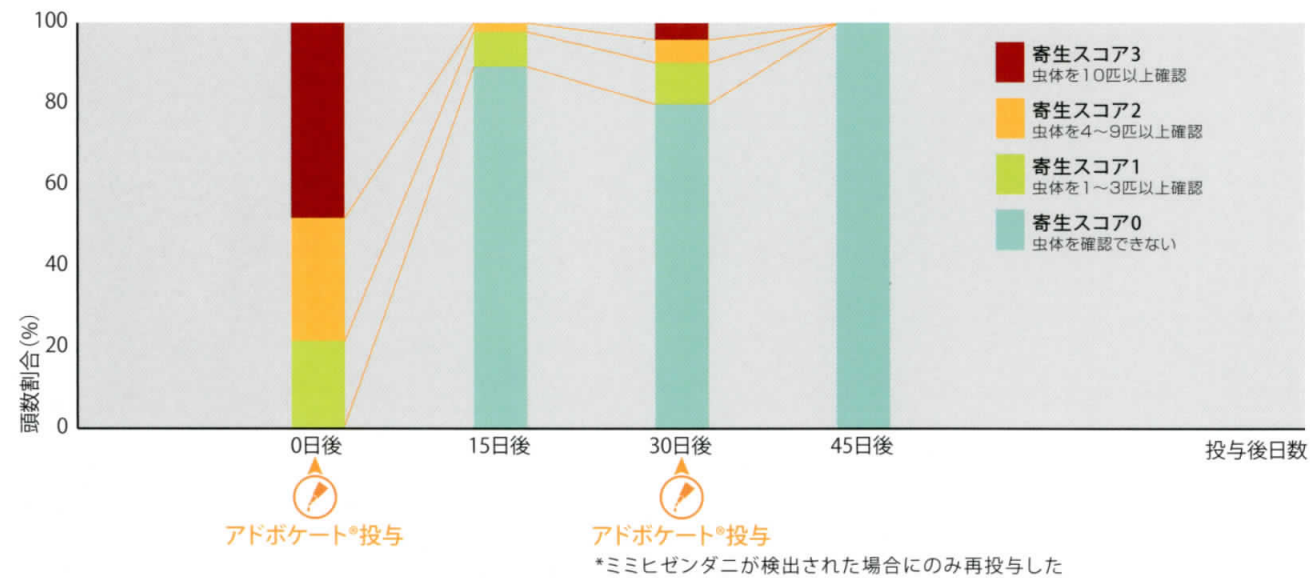
$$\text{ミミヒゼンダニ駆除率(\%)} = \frac{\text{プラセボ投与群の幾何平均ミミヒゼンダニ寄生数} - \text{薬剤投与群の幾何平均ミミヒゼンダニ寄生数}}{\text{プラセボ投与群の幾何平均ミミヒゼンダニ寄生数}} \times 100$$

母集団(三施設で実施)	プロトコル	評価日	成績
自然発症例 n=6	単回投与	30日後	98.6%
自然発症例 n=10	単回投与	30日後	99.5%
自然発症例 n=10	2回投与 (0,28)	60日後	99.6%

国内臨床試験におけるミミヒゼンダニ駆除効果



耳垢の直接鏡検によってミミヒゼンダニの感染が確認された猫69頭において、各検査時の寄生スコアを算出した。



ミミヒゼンダニが感染した猫の耳



アドポケット*投与後30日目の猫の耳

猫の外耳疾患のトップは「ミミヒゼンダニ感染症」です。

- 30.6% 1位:ミミヒゼンダニ
- 20.4% 2位:外耳炎(アレルギー+細菌感染)
- 17.8% 3位:外傷

国内臨床獣医師300名へのアンケート調査 富士経済 2015

製品の安全性(犬猫)

多種多様な試験により安全性を確認



若齢~成犬・成猫における安全性(経皮+経口)

最高常用量の5倍量を1か月間隔で6回反復経皮投与(犬)、10倍量を単回経皮投与(猫)臨床投与経路での常用量を単回経口投与(犬猫)



幼犬・幼猫における安全性(経皮)

6週3日~7週0日齢(体重0.971~2.25kg)の幼犬および8週2日~9週0日齢(体重0.731~1.070kg)の幼猫で、常用量~5倍量を2週間隔で6回反復経皮投与



イベルメクチン感受性コリー犬における安全性(経皮+経口)

最高常用量の3倍量および5倍量を4週間隔で3回反復経皮投与常用量の4%~10%を漸増して強制経口投与



犬糸状虫寄生犬・猫における安全性(経皮)

人工寄生犬および自然寄生犬に常用量の5倍量を2週間隔で3回反復経皮投与人工寄生猫に5倍量を30日及び26日間隔で3回反復経皮投与



1週間隔の投与における安全性(経皮)

6か月齢超の雑種犬に対して、最低常用量の5倍量を1週間隔で17回反復経皮投与

使用上の注意

動物用医薬品 劇薬 指定医薬品 要指示医薬品

アドボケート® 犬用

【成分及び分量】

品名	アドボケート® 犬用												
有効成分	1mL中にイミダクロプリド100.0mg 及びモキシデクテン25.0mgを含有する												
用法及び用量	体重1kg当たりイミダクロプリド10mg、モキシデクテン2.5mgを基準量とした以下の投与量を、犬の肩甲骨間の被毛を分け、容器の先端を皮膚に付けて全量を滴下する。なお、4.0mLビペットあるいはそれ以上の量を組み合わせて投与する場合は、数カ所に分けて滴下する。本剤を適用する場合、投与頻度が月1回を超えないよう注意すること。 犬糸状虫症の予防:毎月1回、1ヵ月間隔で蚊の活動開始1ヵ月以内から活動終了まで投与する。 ノミ、犬回虫及び犬鉤虫の駆除:1回投与する。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>体重</th> <th>用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1kg以上4kg未満</td> <td>0.4mLビペット1個全量</td> </tr> <tr> <td>4kg以上10kg未満</td> <td>1.0mLビペット1個全量</td> </tr> <tr> <td>10kg以上25kg未満</td> <td>2.5mLビペット1個全量</td> </tr> <tr> <td>25kg以上40kg未満</td> <td>4.0mLビペット1個全量</td> </tr> <tr> <td>40kg以上</td> <td>適切なビペットの組み合わせ</td> </tr> </tbody> </table>	体重	用量	1kg以上4kg未満	0.4mLビペット1個全量	4kg以上10kg未満	1.0mLビペット1個全量	10kg以上25kg未満	2.5mLビペット1個全量	25kg以上40kg未満	4.0mLビペット1個全量	40kg以上	適切なビペットの組み合わせ
体重	用量												
1kg以上4kg未満	0.4mLビペット1個全量												
4kg以上10kg未満	1.0mLビペット1個全量												
10kg以上25kg未満	2.5mLビペット1個全量												
25kg以上40kg未満	4.0mLビペット1個全量												
40kg以上	適切なビペットの組み合わせ												

【効能又は効果】

犬:犬糸状虫症の予防、ノミ、犬回虫及び犬鉤虫の駆除

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

- (一般的注意)
- 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
 - 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
 - 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。

(使用者に対する注意)

- 飲食をしながら投与しないこと。
- 喫煙をしながら投与しないこと。

(犬に関する注意)

- 犬の外用のみに使用すること。
- 本剤は魚及び甲殻類に影響を与えることがあるので、投与後4日間は犬を湖沼等の水系に入れないこと。

(取扱い及び廃棄に関する注意)

- 本剤の取扱いには十分注意し、他の医薬品、食品、飼料等と区別し、小児の手の届かないところに保管すること。
- 直射日光をさけ、なるべく湿気の少ない涼しい所に保存すること。
- 本剤は魚及び甲殻類に影響を与えることがあるので、容器及び残りの薬剤は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ウサギ眼刺激性試験で刺激性が認められているので、本剤が使用者の目や口に入らないように特に注意すること。
- 本剤の有効成分は皮膚から吸収されるので、誤って使用者の皮膚に付着した場合は直ちに石鹸及び水で洗浄すること。
- 使用した後、又は皮膚に付着した場合は、まれに皮膚に過敏症状(アレルギー、炎症及び刺激等)を認めることがあるので、石鹸及び水で洗浄すること。万一、目に入った場合は、水で十分洗い流すこと。皮膚又は眼に刺激が残る場合は医師の診察を受けること。
- 万一、身体に異常を来した場合や誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちにクロロニコチル系の殺虫剤及びマクロライド系の駆虫剤を含有する薬剤を使用した旨を医師に申し出て診察を受けること。特定の解毒剤は知られていない。

(犬に関する注意)

- 投与部位の皮膚に異常がなく、被毛及び皮膚がぬれていないことを確認した後、投与すること。
- 1ヵ所に滴下する量が多い場合には、本剤の一部が動物の側部に流れること

- があり、経口摂取しやすくなるので、4.0mLビペットあるいはそれ以上の量を組み合わせて投与する場合は、流れないように数カ所に均等に滴下すること。
- ウサギ眼刺激性試験で刺激性が認められているので、本剤が投与する動物の目や口に入らないように注意すること。
- 本剤投与後は乾燥するまで投与部位を舐めないよう注意すること。少なくとも投与後30分は投与した犬と、同居動物、特に子犬との接触を完全に避けること。
- 本剤を適用する場合、投与頻度が月1回を超えないよう注意すること。
- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(取扱い上の注意)

- 本剤投与後、完全に乾くまでは投与部位に直接触れないこと。また、投与したことを知らない人も触れないように注意すること。特に小児では、少なくとも投与後30分は投与した犬との接触を完全に避けること。
- 本剤に含まれている溶剤は、接触したプラスチック、皮革製品、布地及び塗装面に付くと跡が残る場合がある。投与部位がよく乾くまで、接触しないようにすること。

(専門的事項)

① 対象動物の使用制限等

- 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある犬には投与しないこと。
- 本剤は7週齢未満の子犬へは投与しないこと。
- 本剤は体重1kg未満の犬には使用しないこと。
- ノミの発生状況により異なるが、本剤投与後のノミに対する有効期間は約1ヵ月である。
- 本剤の有効成分イミダクロプリド又はモキシデクテンのラット及びウサギを用いた生殖毒性試験では催奇形性を含む胚・胎子毒性及び出生子への影響は認められていないが、妊娠及び授乳期の犬における本剤の安全性は確立されていないので、妊娠及び授乳期の犬には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

② 重要な基本的注意

- 本剤の投与前には健康状態について検査し、異常を認めた場合には投与しないこと。
- 過剰投与にならないよう、本剤の投与前には体重を測定すること。
- 本剤投与前に犬糸状虫寄生の有無を検査等により判定すること。検査陽性犬には、成虫及びミクロフィラリアを駆除するなど適切な処置を行い投与すること。
- 本剤はアベルメクチン系薬剤と同じ大環状ラクトン構造を有するモキシデクテンを含有するので、コリー犬、オールド・イングリッシュ・シープドッグ及びその系統の犬種又は交雑犬種に対しては用法・用量を特に厳守し、投与したこれらの犬種や投与動物と密接に接触するこれらの犬種が経口摂取しないように、特に注意するよう飼い主に指導すること。
- 複数飼育の環境下にある犬(哺乳期子犬を除く)に対しノミの駆除を目的とする場合、全頭に投与することが望ましい。
- 月1回の投与間隔の間に1、2回、短い時間水に触れただけでは、本剤の有効性が有意に低減する可能性は低い。しかし、投与後の頻繁なシャンプーや水浴は、本剤の有効性を低減させる可能性がある。これらのことについて、飼い主に指導すること。
- 本剤は犬糸状虫成虫には効果がないため、成虫駆除を目的として使用しないこと。

③ 相互作用

- 毛包虫症などの治療の目的に、高用量のイベルメクチン(犬用以外の製剤を含む)を投与した犬に、スピノサド錠剤を併用した事例で、重度の副作用の報告がある。イベルメクチンと同じ大環状ラクトン構造を有するモキシデクテンを比較的高濃度に含有する本剤とスピノサド錠剤の併用における安全性は確認されていないので、併用する際は十分に注意すること。

④ 副作用

- 投与直後に投与部位を舐めた場合、まれに運動失調、全身性の振戦、眼の徴候(散瞳、瞳孔反射の微弱化、眼振)、異常呼吸など一過性の神経徴候が生じることがあり、特にアベルメクチン系薬剤に対して感受性のコリー犬、オールド・イングリッシュ・シープドッグ及びその系統の犬種又は交雑犬種では重篤な神経徴候を示す可能性がある。
- コリー犬及びその系統の犬種において、アベルメクチン系薬剤によって、神経毒性を示したとの報告がある。
- 本剤の投与により、ときに流涎、まれに嘔吐が見られることがある。また、投与部位に一過性の掻痒、まれに脂性被毛、紅斑が見られることがある。本剤はまれに局所的な過敏反応を引き起こすことがある。
- 本剤はごくまれに投与部位に刺激を引き起こし、その結果、無関心状態、興奮、食欲不振など一過性の行動変化が起きることがある。

⑤ その他の注意

- 犬回虫及び犬鉤虫の定期的な駆除のために本剤を用いることができる。

動物用医薬品 劇薬 指定医薬品 要指示医薬品

アドボケート® 猫用

【成分及び分量】

品名	アドボケート® 猫用								
有効成分	1mL中にイミダクロプリド100.0mg 及びモキシデクテン10.0mgを含有する								
用法及び用量	体重1kg当たりイミダクロプリド10mg、モキシデクテン1mgを基準量とした以下の投与量を、猫の頭背部の被毛を分け、容器の先端を皮膚に付けて全量を滴下する。本剤を適用する場合、投与頻度が月1回を超えないよう注意すること。 犬糸状虫症の予防:毎月1回、1ヵ月間隔で蚊の活動開始1ヵ月以内から活動終了まで投与する。 ノミ、ミミヒゼンダニ、猫回虫及び猫鉤虫の駆除:1回投与する。								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>体重</th> <th>用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1kg以上4kg未満</td> <td>0.4mLビペット1個全量</td> </tr> <tr> <td>4kg以上8kg未満</td> <td>0.8mLビペット1個全量</td> </tr> <tr> <td>8kg以上</td> <td>適切なビペットの組み合わせ</td> </tr> </tbody> </table>	体重	用量	1kg以上4kg未満	0.4mLビペット1個全量	4kg以上8kg未満	0.8mLビペット1個全量	8kg以上	適切なビペットの組み合わせ
体重	用量								
1kg以上4kg未満	0.4mLビペット1個全量								
4kg以上8kg未満	0.8mLビペット1個全量								
8kg以上	適切なビペットの組み合わせ								

【効能又は効果】

猫:犬糸状虫症の予防、ノミ、ミミヒゼンダニ、猫回虫及び猫鉤虫の駆除

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。

(使用者に対する注意)

- 飲食をしながら投与しないこと。
- 喫煙をしながら投与しないこと。

(猫に関する注意)

- 猫の外用のみに使用すること。

(取扱い及び廃棄に関する注意)

- 本剤の取扱いには十分注意し、他の医薬品、食品、飼料等と区別し、小児の手の届かないところに保管すること。
- 直射日光をさけ、なるべく湿気の少ない涼しい所に保存すること。
- 本剤は魚及び甲殻類に影響を与えることがあるので、容器及び残りの薬剤は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ウサギ眼刺激性試験で刺激性が認められているので、本剤が使用者の目や口に入らないように特に注意すること。
- 本剤の有効成分は皮膚から吸収されるので、誤って使用者の皮膚に付着した場合は直ちに石鹸及び水で洗浄すること。
- 使用した後、又は皮膚に付着した場合は、まれに皮膚に過敏症状(アレルギー、炎症及び刺激等)を認めることがあるので、石鹸及び水で洗浄すること。万一、目に入った場合は、水で十分洗い流すこと。皮膚又は眼に刺激が残る場合は医師の診察を受けること。
- 万一、身体に異常を来した場合や誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちにクロロニコチル系の殺虫剤及びマクロライド系の駆虫剤を含有する薬剤を使用した旨を医師に申し出て診察を受けること。特定の解毒剤は知られていない。

(猫に関する注意)

- 投与部位の皮膚に異常がなく、被毛及び皮膚がぬれていないことを確認した後、投与すること。
- ウサギ眼刺激性試験で刺激性が認められているので、本剤が投与する動物

の目や口に入らないように注意すること。

- 本剤投与後は乾燥するまで投与部位を舐めないよう注意すること。少なくとも投与後30分は投与した猫と、同居動物、特に子猫との接触を完全に避けること。
- 本剤を適用する場合、投与頻度が月1回を超えないよう注意すること。
- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(取扱い上の注意)

- 本剤投与後、完全に乾くまでは投与部位に直接触れないこと。また、投与したことを知らない人も触れないように注意すること。特に小児では、少なくとも投与後30分は投与した猫との接触を完全に避けること。
- 本剤に含まれている溶剤は、接触したプラスチック、皮革製品、布地及び塗装面に付くと跡が残る場合がある。投与部位がよく乾くまで、接触しないようにすること。

(専門的事項)

① 対象動物の使用制限等

- 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある猫には投与しないこと。
- 本剤は9週齢未満の子猫へは投与しないこと。
- 本剤は体重1kg未満の猫には使用しないこと。
- ノミの発生状況により異なるが、本剤投与後のノミに対する有効期間は約1ヵ月である。
- 本剤の有効成分イミダクロプリド又はモキシデクテンのラット及びウサギを用いた生殖毒性試験では催奇形性を含む胚・胎子毒性及び出生子への影響は認められていないが、妊娠及び授乳期の猫における本剤の安全性は確立されていないので、妊娠及び授乳期の猫には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

② 重要な基本的注意

- 本剤の投与前には健康状態について検査し、使用の可否を決めること。
- 過剰投与にならないよう、本剤の投与前には体重を測定すること。
- 本剤の投与前に犬糸状虫寄生の有無を検査すること。本剤を犬糸状虫寄生が疑われる猫に投与する場合には慎重に投与すること。
- 複数飼育の環境下にある猫(哺乳期子猫を除く)に対しノミの駆除を目的とする場合、全頭に投与することが望ましい。
- ミミヒゼンダニについては、投与1ヵ月後に十分な効果が得られない場合は再投与することが望ましい。
- 月1回の投与間隔の間に1、2回、短い時間水に触れただけでは、本剤の有効性が有意に低減する可能性は低い。しかし、投与後の頻繁なシャンプーや水浴は、本剤の有効性を低減させる可能性がある。これらのことについて、飼い主に指導すること。
- 本剤は犬糸状虫成虫には効果がないため、成虫駆除を目的として使用しないこと。

③ 副作用

- 投与直後に投与部位を舐めた場合、まれに運動失調、全身性の振戦、眼の徴候(散瞳、瞳孔反射の微弱化、眼振)、異常呼吸など一過性の神経徴候が生じることがある。
- 本剤の投与により、ときに流涎、落ち着きのなさ、まれに嘔吐が見られることがある。また、投与部位に一過性の掻痒、ときに皮膚炎、脱毛、まれに脂性被毛、紅斑が見られることがある。
- 本剤はまれに局所的な過敏反応を引き起こすことがある。
- 本剤はごくまれに投与部位に刺激を引き起こし、その結果、無関心状態、興奮、食欲不振など一過性の行動変化が起きることがある。

④ その他の注意

- 猫回虫及び猫鉤虫の定期的な駆除のために本剤を用いることができる。